

平成 26 年度

事業報告書
決算書

目 次

I - I. 平成 26 年度事業報告書	
1. 事業概況（平成 26 年度を振り返って）	3
2. 総 裁	3
3. 役員構成	3
4. 会員数	3
5. 会議等	4
6. 登記事項	4
7. 組織及び職員数	5
8. 恩賜発明賞・恩賜記念賞の贈呈	6
9. 発明奨励振興事業	6
(1) 全国発明表彰	6
(2) 地方発明表彰	7
10. 青少年創造性開発育成事業	7
(1) 第 73 回全日本学生児童発明くふう展	7
(2) 第 36 回未来の科学の夢絵画展	8
(3) 少年少女発明クラブ事業	8
(4) 地域活性化アイデア創作活動の実施	9
(5) 第 5 回全国少年少女チャレンジ創造コンテスト	9
(6) 第 58 回東京都児童生徒発明くふう展	10
(7) 青少年創造性開発育成海外交流	10
(8) 発明の日及び科学技術週間協賛事業	10
(9) 青少年創造性開発育成委員会	10
(10) 青少年の創造性開発育成事業に対する協賛制度	10
11. 知的財産権制度普及等事業	11
(1) 国際知的財産保護フォーラム	11
12. 創立 110 周年記念事業	11
(1) 創立 110 周年記念式典・記念祝賀会	11
(2) 戦後日本のイノベーション 100 選	11
13. 地域機関との相互連携	12
(1) 発明協会会長等懇談会（8 地方ブロック）	12
14. 関係省庁への協力	12
(1) 文部科学省表彰関係事業への協力	12
(2) 特許庁産業財産権制度関係表彰事業への協力	12
15. 東京発明推進協議会	12
16. 公益事業の広報活動	12
I - II. 事業報告書の附属明細書	
事業報告書の附属明細書	13
II. 平成 26 年度決算書	
貸借対照表	15
正味財産増減計算書	16
正味財産増減計算書内訳表	17
財務諸表に対する注記	18
附属明細書	19
財産目録	20
収支計算書	22
収支計算書（資金ベース）	23

I. 平成 26 年度事業報告書

1. 事業概況（平成 26 年度を振り返って）

平成 26 年度は青色発光ダイオードの発明に貢献した日本人 3 名の方々がノーベル物理学賞を受賞し、また、小惑星探査機「はやぶさ 2」の打ち上げが見事成功する等、我が国の科学技術力の高さを実感する出来事が相次ぐ 1 年だった。こうした優れた業績や成果を目の当たりにすることは、我が国の科学技術や産業経済の分野を大いに活気づけるとともに、未来を担う青少年にも大きな夢を与えるものとして極めて重要である。

当協会は、我が国に活力を与える発明やイノベーションを支援すべく、科学技術の振興に向けた発明の奨励、青少年の創造性開発育成、知的財産権制度普及等の公益事業を積極的に推進した。

平成 26 年度においても、皇室より御下賜金を拝受し、全国発明表彰においては恩賜発明賞を、全日本学生児童発明くふう展においては恩賜記念賞をそれぞれ最も優秀な発明及び作品に贈呈した。また、発明奨励振興事業においては、我が国科学技術の振興と産業経済の発展に寄与すべく、全国発明表彰及び地方発明表彰を実施した。更に青少年創造性開発育成事業においては、全日本学生児童発明くふう展、未来の科学の夢絵画展を開催するとともに、全国に展開している少年少女発明クラブ、全国少年少女チャレンジ創造コンテスト事業の拡充・強化を図った。なお、青少年創造性開発育成事業に対する協賛制度においては平成 26 年度も数多くの企業より協賛を得ることができた。

本年度は発明協会設立 110 周年であることから、一般社団法人発明推進協会との共催により、記念式典及び記念祝賀会を実施するとともに、「戦後日本のイノベーション 100 選」として、アンケートによる得票数トップテンのほか、高度成長期までのイノベーション計 38 件を発表した。

以下、平成 26 年度の事業について報告する。

2. 総 裁 常 陸 宮 殿 下

3. 役 員 構 成 （平成 27 年 3 月 31 日現在）

会 長	1 名（代表理事）
副 会 長	6 名（内 1 名代表理事）
専務理事	1 名（業務執行理事）
常務理事	2 名（業務執行理事）
理 事	35 名
監 査 役	2 名
特別顧問	2 名
顧 問	3 名
参 与	2 名
幹 事	157 名

4. 会 員 数 （平成 27 年 3 月 31 日現在）

474 名

5. 会 議 等

(1) 定時総会

日 時 平成 26 年 6 月 18 日（水）13：15～14：00
場 所 ホテルオークラ 本館 2 階「オークルーム」
議 題 <決議事項>
第 1 号議案 平成 25 年度事業報告及び決算承認の件
第 2 号議案 理事選任の件
<報告事項>
平成 26 年度事業計画及び同収支予算報告の件

(2) 理事会

①日 時 平成 26 年 5 月 19 日（月）12：20～13：15
場 所 ホテルオークラ 本館 2 階「エメラルドルーム」
議 題 (1) 平成 25 年度事業報告及び決算（案）について
(2) 理事選任（案）について
(3) 定時総会の招集（案）について
(4) 幹事の推薦について
(5) 報告事項
・全国発明表彰 第 2 表彰区分（「21 世紀発明賞」）の変更について
・代表理事等の職務執行状況の報告について
・一般社団法人発明推進協会からの特定寄附受入について
(6) その他
・平成 25 年度における青少年創造性開発育成事業に対する協賛制度の結果について
・平成 26 年度公益財団法人 JKA 補助事業について

②日 時 平成 26 年 6 月 18 日（水）14：00～14：10
場 所 ホテルオークラ 本館 2 階「オークルーム」
議 題 (1) 常務理事の選定について
(2) 幹事の推薦について
(3) 報告事項
・「戦後日本のイノベーション 100 選」について

③日 時 平成 27 年 3 月 24 日（火）12：25～13：15
場 所 ホテルオークラ 本館 2 階「オークルーム」
議 題 (1) 平成 27 年度事業計画・同収支予算（案）について
(2) 報告事項
・代表理事等の職務執行状況の報告について

④ 理事会の省略による決議の方法により、当該議案が議決された。
議 案 特別顧問、顧問及び参与の推薦について
決議日があったものと見なされた日 平成 26 年 6 月 30 日

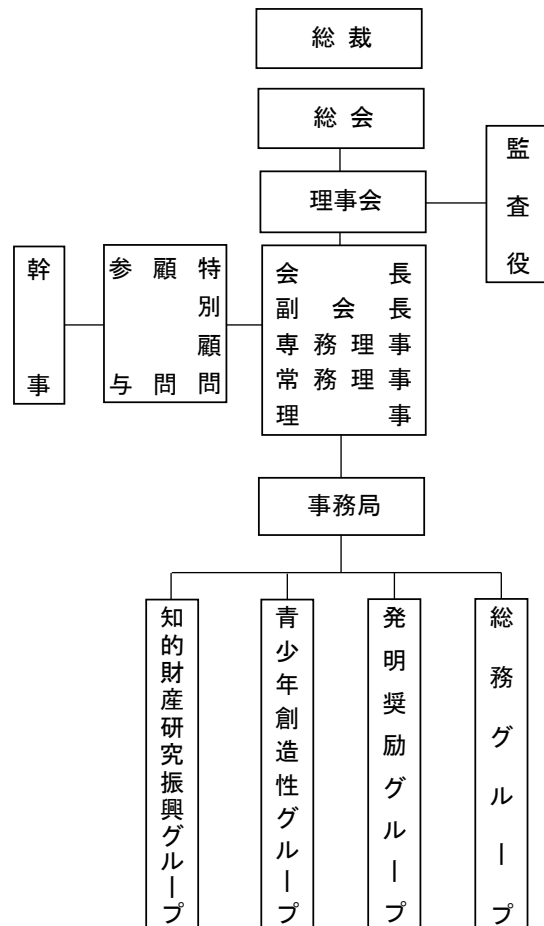
6. 登記事項

理事変更登記

平成 26 年 6 月 27 日 (金)

7. 組織及び職員数 (平成 27 年 3 月 31 日現在)

機構・組織図



職員数 18 名

8. 恩賜発明賞・恩賜記念賞の贈呈

平成 26 年度全国発明表彰において、独創性に富む極めて優れた発明により我が国科学技術の振興と産業の発展に大きく貢献した発明者に恩賜発明賞を、また、第 73 回全日本学生児童発明くふう展において、最も優秀な作品の創作者に恩賜記念賞を贈り、その栄誉をたたえた。

○恩賜発明賞 「超並列計算機のためのプロセッサの高次元接続技術の発明」

安島 雄一郎 富士通株式会社

井上 智宏 富士通株式会社

平本 新哉 富士通株式会社

○恩賜記念賞 「垂直回転軸平行車輪による全方向走行システム」

黒澤 龍之介 伊達市立伊達中学校 2 年

9. 発明奨励振興事業

(1) 全国発明表彰

主催 (公社) 発明協会

後援 文部科学省、経済産業省、特許庁、日本経済団体連合会、日本商工会議所、日本弁理士会、朝日新聞社

本年度は、46 道府県における発明協会(以下、「地域協会」という。)、企業、関係団体等からの推薦により、平成 26 年 1 月 31 日(金)から 3 月 4 日(火)にかけて意匠・電気・機械・化学及び 21 世紀専門部会を開催し、平成 26 年 4 月 8 日(火)の選考委員会において審査を行い、第 1 表彰区分として恩賜発明賞、内閣総理大臣発明賞等の特別賞ほか各賞を、第 2 表彰区分として 21 世紀発明賞及び 21 世紀発明奨励賞を選考した。

また、恩賜発明賞、内閣総理大臣発明賞等特別賞を受賞した法人の代表者に発明実施功績賞を、21 世紀発明賞、21 世紀発明奨励賞を受賞した法人の代表者に 21 世紀発明貢献賞をそれぞれ贈呈した。

表彰式は、当協会創立 110 周年記念式典にあわせ、平成 26 年 7 月 8 日(火)ホテルオークラ東京本館 1 階「平安の間」において、総裁常陸宮殿下並びに同妃殿下御臨席のもと、古谷内閣官房副長官補、富岡文部科学大臣政務官、松島経済産業副大臣をはじめとする来賓や各界から多数の参列者を得て、盛大に挙行了した。

○第 1 表彰区分

恩賜発明賞 1 件 3 名 特別賞 9 件 32 名 発明賞 11 件 27 名

発明実施功績賞 9 件 9 名

○第 2 表彰区分

21 世紀発明賞 1 件 5 名

21 世紀発明奨励賞 2 件 8 名

21 世紀発明貢献賞 3 件 3 名

○発明奨励功労賞 13 名

なお、恩賜発明賞の受賞者には副賞として畠山一清賞を贈呈した。その他特別賞受賞者に対し副賞を贈呈した。

(2) 地方発明表彰

主催 (公社) 発明協会
共催 46 道府県発明協会
後援 文部科学省、特許庁、中小企業庁、各経済産業局、北海道、福島県、茨城県、岐阜県、京都府、広島県、香川県、佐賀県、日本弁理士会、(一財) 工業所有権電子情報化センター

本年度は、地域協会から多数推薦された中から、平成 26 年 7 月 31 日 (木) に開催した中央選考委員会及び平成 26 年 8 月下旬から 9 月上旬にかけて各地方で開催した地方選考委員会において各賞を選考した。

表彰式は、平成 26 年 10 月上旬から 11 月下旬にかけて以下のとおり挙行し、計 456 件、1,276 名を表彰した。

- ・北海道地方発明表彰式 平成 26 年 10 月 24 日 (金) 北海道帯広市
- ・東北地方発明表彰式 平成 26 年 11 月 13 日 (木) 福島県郡山市
- ・関東地方発明表彰式 平成 26 年 11 月 28 日 (金) 茨城県水戸市
- ・中部地方発明表彰式 平成 26 年 11 月 21 日 (金) 岐阜県岐阜市
- ・近畿地方発明表彰式 平成 26 年 11 月 14 日 (金) 京都府京都市
- ・中国地方発明表彰式 平成 26 年 11 月 5 日 (水) 広島県広島市
- ・四国地方発明表彰式 平成 26 年 11 月 19 日 (水) 香川県高松市
- ・九州地方発明表彰式 平成 26 年 10 月 31 日 (金) 佐賀県佐賀市

10. 青少年創造性開発育成事業

(1) 第 73 回全日本学生児童発明くふう展

主催 (公社) 発明協会
後援 文部科学省、経済産業省、特許庁、日本弁理士会、NHK、毎日新聞社、(公財) 日本科学技術振興財団・科学技術館、全国連合小学校長会、全日本中学校長会、全国高等学校長協会、(公社) 全国工業高等学校長協会

本年度は、各地域で開催された発明くふう展等において優秀な成績を収めた作品を中心に全国の地域協会より推薦された 762 点の作品について、平成 27 年 1 月 8 日 (木) に審査幹事会、1 月 27 日 (火) に審査委員会を開催して審査を行い、恩賜記念賞、内閣総理大臣賞等の特別賞ほか各賞を選考した。

展覧会は、平成 27 年 3 月 25 日 (水) から 3 月 29 日 (日) まで、東京・北の丸公園内の科学技術館において開催した。

表彰式は、平成 27 年 3 月 25 日 (水) 総裁常陸宮殿下並びに同妃殿下御臨席のもと、常盤文部科学省研究振興局長、伊藤特許庁長官をはじめ来賓多数の参列を得て、科学技術館「サイエンスホール」において挙行した。

また、同展の開催にあわせて協賛企業等の協力により発明教室等を開催し、多数の児童生徒が創作活動に親しんだ。

- ・第 73 回全日本学生児童発明くふう展入賞作品
 - 恩賜記念賞 1 点 ○特別賞 13 点 ○奨励賞 21 点 ○入選 123 点

(2) 第 36 回未来の科学の夢絵画展

主催 (公社) 発明協会

後援 文部科学省、経済産業省、特許庁、国立科学博物館、日本弁理士会、NHK、朝日新聞社、朝日小学生新聞、朝日中学生ウイークリー、(公社) 日本美術教育連合、(公財) 美育文化協会

本年度は、全国の小・中学校、幼稚園・保育園及び外国人学校の児童生徒を対象に作品を募集し、10,845 点の応募があった。平成 26 年 2 月 19 日 (水) に審査委員会を開催して審査を行い、文部科学大臣賞等の特別賞ほか各賞を選考した。展覧会は、平成 26 年 4 月 15 日 (火) から 4 月 27 日 (日) にかけて東京上野・国立科学博物館において開催した。表彰式は、文部科学省より棒田振興企画課奨励室長、特許庁より堂ノ上総務部総務課長をはじめ来賓多数の参列を得て、4 月 22 日 (火) に同博物館日本館講堂において挙行了。

・「小学校・中学校の部」

○特別賞	11 点	○優秀賞	49 点	○奨励賞	74 点
------	------	------	------	------	------

・「幼稚園の部」

○特別賞	1 点	○優秀賞	5 点	○奨励賞	42 点
------	-----	------	-----	------	------

・「在日外国人学校の部」

○特別賞	1 点	○優秀賞	5 点	○奨励賞	12 点
------	-----	------	-----	------	------

(3) 少年少女発明クラブ事業

①少年少女発明クラブ

次の世代を担う有為な人材の育成を図るため、青少年を対象とした創造性開発育成に関する事業を行った。本年度は、全国で 215 ヶ所の発明クラブ (約 8,500 名のクラブ員、約 2,300 名の指導員) が活動を行った。

② 第 75 回少年少女発明クラブ全国会議

少年少女発明クラブの指導・運営に携わる関係者を対象に、効果的な指導方法に関する情報交換等を目的とした全国会議を開催した。

・開催日：平成 26 年 11 月 28 日 (金) ～29 日 (土)

・会 場：国立オリンピック記念青少年総合センター (東京都渋谷区)

・出席者：全国各発明クラブ会長、企画運営委員、指導員、地域協会担当者等 173 名

③ 第 76 回少年少女発明クラブ全国会議

少年少女発明クラブの指導・運営に携わる関係者を対象に、青少年の創造性開発育成に関する諸課題について研究・討議する全国会議を開催した。

・開催日：平成 27 年 2 月 23 日 (月)

・会 場：発明会館ホール

・出席者：全国各発明クラブ会長、企画運営委員、指導員、地域協会担当者等 144 名

④少年少女発明クラブ指導員表彰

少年少女発明クラブにおける指導活動に多年従事し、青少年の創造性開発育成に関し特に功績のあった指導員を表彰した。指導員表彰第 2 回目の今回は、46 の発明クラブの 73 名の

方々を対象に表彰した。

※第 76 回少年少女発明クラブ全国会議にて表彰した。

⑤少年少女発明クラブ指導員研修会

少年少女発明クラブ指導員の資質の向上と情報交換を図るため、ブロック別研修会（6 ブロック）及び都道府県別研修会（11 箇所）を開催した。

⑥少年少女発明クラブニュースの発行

少年少女発明クラブにおける創意工夫活動の成果、各種イベントの告知・報告等を掲載した「少年少女発明クラブニュース」を隔月（計 6 回）で発行し、全国の少年少女発明クラブ、各地域協会、地方自治体、科学館等を通じて広く一般に配布した。

⑦「はつめいキッズ」ホームページの運営

少年少女発明クラブをはじめとした青少年創造性開発育成事業全般を紹介し、青少年の創造性開発育成の普及を図ることを目的に、ホームページ「はつめいキッズ」の運営を行った。

*本事業の①、②、⑤、⑥、⑦については、（公財）JKA 補助事業の一部として実施した。

(4) 地域活性化アイデア創作活動の実施

本事業は、子供たちが、地域社会が抱える課題に向き合い、その解決策を作品として創り上げて発表・実践する活動であり、本年度は、世界遺産となった富岡製紙場の他にも多くの見どころを有する西上州を知って貰うため、子供たちの音声ガイド付の「上信電鉄沿線案内板」を作成した。案内板は、上信電鉄高崎駅の改札前に設置され、平成 27 年 3 月 22 日に、同電鉄の関係者と子供たちが出席して除幕式と贈呈式が行われた。

*本事業は、（公財）JKA 補助事業の一部として実施した。

(5) 第 5 回全国少年少女チャレンジ創造コンテスト

主催 （公社）発明協会

後援 文部科学省、経済産業省、特許庁、日本弁理士会、NHK、読売新聞社、
全国連合小学校長会、全日本中学校長会

3 人一組で課題に取り組む本コンテストにおいて、「からくりパフォーマンス・カー」をテーマに、全国 83 地域で地区大会を開催した（768 チーム（2,304 人）が参加）。地区大会の結果を踏まえ、平成 26 年 9 月 30 日（火）に開催したコンテスト委員会において全国大会に出場する 60 チームを選考した。

全国大会は、平成 26 年 11 月 29 日（土）東京工業大学屋内運動場（東京都目黒区）において開催し、文部科学大臣賞、特許庁長官賞の特別賞ほか各賞を選考し、競技終了後引き続き、関係官庁、関係団体等の参列を得て表彰式を挙行了した。

・第 5 回全国少年少女チャレンジ創造コンテスト入賞チーム

○特別賞 2 チーム ○優秀賞 8 チーム

*本事業は、(公財) JKA 補助事業の一部として実施した。

(6) 第 58 回東京都児童生徒発明くふう展

東京都からの受託事業として、第 58 回東京都児童生徒発明くふう展を開催した。展覧会は東京都議会議事堂 1 階都政ギャラリーにおいて平成 26 年 12 月 10 日(水)～13 日(土)にかけて開催し、特別賞 13 点、優秀賞 21 点、入選 56 点の計 90 点を展示した。また、表彰式を会期中の平成 26 年 12 月 13 日(土)に都議会議事堂 1 階都民ホールにおいて開催した。

(7) 青少年創造性開発育成海外交流

①青少年創造性開発海外交流インドネシア派遣団

インドネシア科学院(LIPI)の招聘により、平成 26 年 10 月 28 日(火)から 11 月 3 日(月)にかけて、第 71 回全日本学生児童発明くふう展、第 36 回未来の科学の夢絵画展及び第 3 回全国少年少女チャレンジ創造コンテストの各事業において優秀な成績をおさめた青少年と当協会職員の計 15 名による「青少年創造性開発育成海外交流インドネシア派遣団」を結成し、南ジャカルタ市で開催された「2014 世界青少年発明工夫展」に参加した(参加:11ヶ国・地域、142 作品)。

②2014 発明奨励国際フォーラム

発明奨励団体間の国際的連携の促進を目的に、平成 26 年 10 月 30 日(木)から 11 月 1 日(土)にかけて、インドネシア・南ジャカルタ市で開催された 2014 発明奨励国際フォーラム(International Forum for Invention Promotion: IFIP)に当協会役員を派遣した(参加:8ヶ国・地域)。

*本事業は、(公財) JKA 補助事業の一部として実施した。

(8) 発明の日及び科学技術週間協賛事業

発明の日(平成 26 年 4 月 18 日)及び科学技術週間(平成 26 年 4 月 14 日～22 日)協賛事業として、当協会、地域協会及び全国の少年少女発明クラブにおいて公開発明教室、発明クラブ作品展、無料発明相談会等各種の協賛事業を行った。

(9) 青少年創造性開発育成委員会

創造性開発育成事業の拡充・強化等について審議を行うため、「第 34 回青少年創造性開発育成委員会」を平成 27 年 3 月 2 日(月)に発明会館会議室において開催した。

(10) 青少年の創造性開発育成事業に対する協賛制度

当協会が行う青少年創造性開発育成事業について、広く産業界からの事業協賛を募り同事業の更なる充実を図った。

平成 26 年度においては、以下の協賛を得た。

- ・ゴールドスポンサー企業 11 社

- ・シルバースポンサー企業 10社
- ・ブロンズスポンサー企業 26社
- ・寄付企業 4社

11. 知的財産権制度普及等事業

(1) 国際知的財産保護フォーラム

国際知的財産保護フォーラム（IIPPF）第4プロジェクトの幹事機関として、平成26年7月19（土）に東京都中央区教育センターにおいて「出張IPカルチャー教室」の開催及び「真正品、模倣品・海賊版の展示」を実施した。後者については、平成26年9月20日（土）に東京都中央区教育センターにおいて、また、平成27年3月25日（水）～29日（日）に第73回全日本学生児童発明くふう展会場においてそれぞれ展示を行った。

更に、IIPPF第4プロジェクト会合を平成27年1月22日（木）に開催し、平成26年度の活動及び平成27年度の活動計画について審議した。

12. 創立110周年記念事業

(1) 創立110周年記念式典・記念祝賀会

総裁常陸宮殿下並びに同妃殿下御臨席のもと、創立110周年記念式典及び記念祝賀会を挙行了。式典においては、発明協会元会長の豊田章一郎氏、元副会長の歌田勝弘氏、全国発明表彰選考委員会元委員長の向山光昭氏、理事の仲田洋一氏に対し、庄山会長より特別功労者感謝状が贈呈された。

日 時:平成26年7月8日(火)11時25分～11時50分 記念式典
12時00分～13時15分 記念祝賀会

場 所:ホテルオークラ 本館1階「平安の間」

主な出席者:伊吹文明衆議院議長、山崎正昭参議院議長、
金築誠志最高裁判所判事、世耕弘成内閣官房副長官、
古谷一之内閣官房副長官補、下村博文文部科学大臣、
富岡勉文部科学大臣政務官、松島みどり経済産業副大臣、
伊藤仁特許庁長官、棕田哲史日本経済団体連合会専務理事、
中村利雄日本商工会議所専務理事、古谷史旺日本弁理士会会長、
木村伊量朝日新聞社代表取締役社長

招待者:内閣・国会・裁判所関係、官庁関係、地方公共団体関係、国内関係団体、
海外関係機関、全国発明表彰受賞者関係者等から 計 約 600名

(2) 戦後日本のイノベーション100選

当協会創立110周年を記念して実施する「戦後日本のイノベーション100選」に関し、本年度はアンケート投票数トップ10と高度経済成長期までの計38イノベーションを選定し、平成26年6月18日に第1次発表を行った。また、本発表にあわせて広く一般の方々の利用に供することを目的に、選定されたイノベーションの解説文及び主要関係者のインタビュー

映像を掲載した特設サイトを開設した。また、引き続き 100 選を目標に候補案件の選定作業を行った。

13. 地域機関との相互連携

(1) 発明協会会長等懇談会（8 地方ブロック）

全国で開催される地方発明表彰式にあわせ、地域協会会長等との懇談会を開催し意見交換を行った。

懇談会は、北海道地方・平成 26 年 10 月 24 日（金）、東北地方・平成 26 年 11 月 13 日（木）、関東地方・平成 26 年 11 月 28 日（金）、中部地方・平成 26 年 11 月 21 日（金）、近畿地方・平成 26 年 11 月 14 日（金）、中国地方・平成 26 年 11 月 5 日（水）、四国地方・平成 26 年 11 月 19 日（水）、九州地方・平成 26 年 10 月 31 日（金）の日程で開催した。

14. 関係省庁への協力

(1) 文部科学省表彰関係事業への協力

科学技術の振興と発明の普及に寄与するため、叙勲、褒章並びに科学技術分野の文部科学大臣表彰科学技術賞（開発部門、研究部門、技術部門等）の表彰対象者の調査並びに推薦を行った。

(2) 特許庁産業財産権制度関係表彰事業への協力

経済産業省・特許庁が実施した「産業財産権制度関係功労者表彰」並びに「産業財産権制度活用優良企業等表彰」の表彰対象者等の調査並びに推薦を行った。

15. 東京発明推進協議会

平成 27 年 1 月 19 日（月）に新年賀詞交歓会を開催し、会員、来賓等との交流を図った。

16. 公益事業の広報活動

当協会が行う各種公益事業について掲載する機関紙「月報はつめい」を配付するとともにホームページにおいて広報活動に努めた。

I - II. 事業報告書の附属明細書

平成 26 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成 27 年 5 月
公益社団法人 発明協会

貸 借 対 照 表

平成27年3月31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金及び預金	108,418,216	101,229,273	7,188,943
未収入金	23,742,256	27,356,932	△ 3,614,676
預け金	3,836,434	4,714,516	△ 878,082
前払費用	1,062,153	1,062,153	0
流動資産合計	137,059,059	134,362,874	2,696,185
2. 固定資産			
(1) 特定資産			
青少年創造特定資産	4,000,000	2,000,000	2,000,000
退職給付引当資産	13,500,000	9,000,000	4,500,000
特定資産合計	17,500,000	11,000,000	6,500,000
(2) その他固定資産			
その他固定資産合計	0	0	0
固定資産合計	17,500,000	11,000,000	6,500,000
資 産 合 計	154,559,059	145,362,874	9,196,185
II 負債の部			
1. 流動負債			
買掛金	10,311,130	10,719,436	△ 408,306
未払金	97,956,183	90,824,867	7,131,316
前受金	11,690,000	11,830,000	△ 140,000
預り金	589,406	1,621,112	△ 1,031,706
流動負債合計	120,546,719	114,995,415	5,551,304
2. 固定負債			
退職給付引当金	13,500,000	9,000,000	4,500,000
固定負債合計	13,500,000	9,000,000	4,500,000
負 債 合 計	134,046,719	123,995,415	10,051,304
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産			
寄付金	0	0	0
(うち特定資産への充当額)	(0)	(0)	(0)
2. 一般正味財産			
(うち特定資産への充当額)	(4,000,000)	(2,000,000)	(2,000,000)
正 味 財 産 合 計	20,512,340	21,367,459	△ 855,119
負 債 及 び 正 味 財 産 合 計	154,559,059	145,362,874	9,196,185

正味財産増減計算書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位:円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
〔1〕経常増減の部			
1. 経常収益			
(1) 御 下 賜 金	50,000	50,000	0
(2) 受 取 会 費	33,560,000	34,070,000	△ 510,000
(3) 事 業 収 益	3,422,318	4,048,918	△ 626,600
① 発 明 奨 励 振 興 事 業 収 益	(3,422,318)	(4,048,918)	(△ 626,600)
(4) 受 取 補 助 金 等	21,223,666	26,636,932	△ 5,413,266
① J K A 補 助 金	(21,223,666)	(26,636,932)	(△ 5,413,266)
(5) 受 取 寄 付 金・受 取 協 賛 金 等	262,237,904	257,491,093	4,746,811
① 資 金 寄 付・協 賛 金 収 益	(71,706,904)	(66,408,093)	(5,298,811)
② 資 金 寄 付 振 替 額	(20,263,000)	(21,815,000)	(△ 1,552,000)
③ 特 定 寄 付 収 益	(170,268,000)	(169,268,000)	(1,000,000)
(6) 雑 収 益	106,644	141,804	△ 35,160
経 常 収 益 計	320,600,532	322,438,747	△ 1,838,215
2. 経常費用			
事 業 費	276,703,043	275,349,294	1,353,749
① 発 明 奨 励 振 興 事 業 費	(155,620,362)	(157,422,232)	(△ 1,801,870)
② 事 業 人 件 費	(98,769,939)	(95,836,961)	(2,932,978)
③ 事 業 事 務 費	(22,312,742)	(22,090,101)	(222,641)
(2) 管 理 費	44,752,608	31,908,785	12,843,823
① 人 件 費	(10,121,912)	(8,511,631)	(1,610,281)
② 事 務 費	(34,630,696)	(23,397,154)	(11,233,542)
経 常 費 用 計	321,455,651	307,258,079	14,197,572
当 期 経 常 増 減 額	△ 855,119	15,180,668	△ 16,035,787
〔2〕経常外増減の部			
(1) 経 常 外 収 益	0	0	0
(2) 経 常 外 費 用	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	△ 855,119	15,180,668	△ 16,035,787
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	21,367,459	6,186,791	15,180,668
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	20,512,340	21,367,459	△ 855,119
II 指定正味財産増減の部			
(1) 受 取 寄 付 金	20,263,000	21,815,000	△ 1,552,000
① 資 金 寄 付	(20,263,000)	(21,815,000)	(△ 1,552,000)
(2) 一 般 正 味 財 産 へ の 振 替 額	△ 20,263,000	△ 21,815,000	1,552,000
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	0	0	0
III 正味財産期末残高	20,512,340	21,367,459	△ 855,119

正味財産増減計算書内訳表

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位:円)

科 目	公益目的事業会計		法人会計	内部取引消去	合計
	公1 発明奨励等	小計			
I 一般正味財産増減の部					
[1]経常増減の部					
1. 経常収益					
(1) 御下賜金	50,000	50,000	0	0	50,000
(2) 受取会費	16,780,000	16,780,000	16,780,000	0	33,560,000
(3) 事業収益	3,422,318	3,422,318	0	0	3,422,318
① 発明奨励振興事業収益	(3,422,318)	(3,422,318)	(0)		(3,422,318)
(4) 受取補助金等	21,223,666	21,223,666	0	0	21,223,666
① JKA補助金	(21,223,666)	(21,223,666)	(0)		(21,223,666)
(5) 受取寄付金・受取協賛金等	235,227,059	235,227,059	27,010,845	0	262,237,904
① 受取寄付・協賛金収益	(67,603,142)	(67,603,142)	(4,103,762)		(71,706,904)
② 資金寄付振替額	(20,263,000)	(20,263,000)	(0)		(20,263,000)
③ 特定寄付収益	(147,360,917)	(147,360,917)	(22,907,083)		(170,268,000)
(6) 雑収益	0	0	106,644	0	106,644
経常収益計	276,703,043	276,703,043	43,897,489	0	320,600,532
2. 経常費用					
(1) 事業費	276,703,043	276,703,043	0	0	276,703,043
① 発明奨励振興事業費	(155,620,362)	(155,620,362)	(0)		(155,620,362)
② 事業人件費	(98,769,939)	(98,769,939)	(0)		(98,769,939)
③ 事業事務費	(22,312,742)	(22,312,742)	(0)		(22,312,742)
(2) 管理費	0	0	44,752,608	0	44,752,608
① 人件費	(0)	(0)	(10,121,912)		(10,121,912)
② 事務費	(0)	(0)	(34,630,696)		(34,630,696)
経常費用計	276,703,043	276,703,043	44,752,608	0	321,455,651
当期経常増減額	0	0	△ 855,119	0	△ 855,119
[2]経常外増減の部					
(1) 経常外収益					
経常外収益計	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用					
経常外費用計	0	0	0	0	0
当期経常外増減額	0	0	0	0	0
他会計振替高	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	0	0	△ 855,119	0	△ 855,119
一般正味財産期首残高	0	0	21,367,459	0	21,367,459
一般正味財産期末残高	0	0	20,512,340	0	20,512,340
II 指定正味財産増減の部					
(1) 受取寄付金	20,263,000	20,263,000	0	0	20,263,000
① 資金寄付	(20,263,000)	(20,263,000)	(0)		(20,263,000)
(2) 一般正味財産への振替額	△ 20,263,000	△ 20,263,000	0	0	△ 20,263,000
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	0	0	0	0	0
指定正味財産期末残高	0	0	0	0	0
III 正味財産期末残高	0	0	20,512,340	0	20,512,340

財務諸表に対する注記

1. 継続事業の前提に関する注記

継続事業の前提に関する重要な疑義を生じさせるような事象または状況は存在しない。

2. 重要な会計方針

(1) 引当金の計上基準

退職給付引当金: 役員退職手当金については、役員の退職手当金支給に備えるため、規則に基づく期末要支給額を計上

(2) 消費税等の会計処理

税抜方式によっている。

3. 特定資産の増減額及びその残高

特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
特定資産				
青少年創造特定資産	2,000,000	2,000,000	0	4,000,000
退職給付引当資産	9,000,000	4,500,000	0	13,500,000
合 計	11,000,000	6,500,000	0	17,500,000

4. 特定資産の財源等の内訳

特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財 産からの充当額)	(うち一般正味財 産からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
特定資産				
青少年創造特定資産	4,000,000	(—)	(4,000,000)	(—)
退職給付引当資産	13,500,000	(—)	(—)	(13,500,000)
合 計	17,500,000	(0)	(4,000,000)	(13,500,000)

5. 補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高

補助金等の内訳並びに交付者、当期の増減額及び残高は、次のとおりである。

(単位:円)

補助金等の名称	交付者	前期末残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高	貸借対照表上の 記載区分
補助金						
平成26年度公益事業振興補助事業	公益財団法人JKA	0	21,223,666	21,223,666	0	
合 計		0	21,223,666	21,223,666	0	

6. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金額
経常収益への振替額	
資金寄付振替額	20,263,000
合 計	20,263,000

附 属 明 細 書

1. 特定資産の明細

財務諸表に対する注記に記載のとおりである。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科 目	期首残高	当期増加額	当 期 減 少 額		期末残高
			目的使用	その他	
退職給付引当金	9,000,000	4,500,000	0	0	13,500,000

財 産 目 録

平成27年3月31日現在

(単位:円)

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金 額
(流動資産)			
現 金	手元保管	運転資金として	1,349,832
預 金	当座預金(三井住友銀行本店営業部)	運転資金として	36,905,866
	普通預金(三井住友銀行本店営業部)	運転資金として	67,687,246
	普通預金(三井住友銀行本店営業部)	運転資金として	1,000,148
	普通預金(りそな銀行東京営業部)	運転資金として	59,274
	振替貯金(ゆうちょ銀行本店)	運転資金として	1,415,850
未 収 入 金	公益財団法人 JKA他	公益目的事業に係る補助金他	23,742,256
預 け 金	札幌中島少年少女発明クラブ他	公益目的事業に係る運営事業費として	3,836,434
前 払 費 用	株式会社発明会館	借室料として	1,062,153
流 動 資 産 合 計			137,059,059
(固定資産)			
特定資産			
青少年創造特定資産	当座預金(三井住友銀行本店営業部)	青少年創造性育成開発	4,000,000
退職給付引当資産	当座預金(三井住友銀行本店営業部)	退職給付引当金見合の引当資産	13,500,000
特 定 資 産 合 計			17,500,000
その他固定資産			
その他固定資産合計			0
固 定 資 産 合 計			17,500,000
資 産 合 計			154,559,059
(流動負債)			
買 掛 金	株式会社シグマコミュニケーションズ他	公益目的事業に係る展示設営費他	10,311,130
未 払 金	一般社団法人発明推進協会他	公益目的事業に係る出向料他	97,956,183
前 受 金	会員他	公益目的事業に係る会費他	11,690,000
預 り 金	芝税務署他	公益目的事業に係る所得税他	589,406
流 動 負 債 合 計			120,546,719
(固定負債)			
退職給付引当金	役員に対するもの	退職金の支払いに備えるもの	13,500,000
固 定 負 債 合 計			13,500,000
負 債 合 計			134,046,719
正 味 財 産			20,512,340

収 支 計 算 書

平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位:円)

科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
I 一般正味財産増減の部			
[1] 経常増減の部			
1. 経常収益			
(1) 御 下 賜 金	50,000	50,000	0
(2) 受 取 会 費	34,120,000	33,560,000	560,000
(3) 事 業 収 益	3,654,000	3,422,318	231,682
① 発 明 奨 励 振 興 事 業 収 益	(3,654,000)	(3,422,318)	(231,682)
(4) 受 取 補 助 金 等	27,113,000	21,223,666	5,889,334
① J K A 補 助 金	(27,113,000)	(21,223,666)	(5,889,334)
(5) 受 取 寄 付 金 ・ 受 取 協 賛 金 等	0	262,237,904	△ 262,237,904
① 資 金 寄 付 ・ 協 賛 金 収 益	(0)	(71,706,904)	(△ 71,706,904)
② 資 金 寄 付 振 替 額	(0)	(20,263,000)	(△ 20,263,000)
③ 特 定 寄 付 収 益	(0)	(170,268,000)	(△ 170,268,000)
(6) 雑 収 益	100,000	106,644	△ 6,644
(7) 指 定 正 味 財 産 からの 振 替 額	273,268,000	0	273,268,000
経 常 収 益 計	338,305,000	320,600,532	17,704,468
2. 経常費用			0
(1) 事 業 費	311,158,000	276,703,043	34,454,957
① 発 明 奨 励 振 興 事 業 費	(191,948,000)	(155,620,362)	(36,327,638)
② 事 業 人 件 費	(97,037,000)	(98,769,939)	(△ 1,732,939)
③ 事 業 事 務 費	(22,173,000)	(22,312,742)	(△ 139,742)
(2) 管 理 費	30,895,000	44,752,608	△ 13,857,608
① 人 件 費	(8,514,000)	(10,121,912)	(△ 1,607,912)
② 事 務 費	(22,381,000)	(34,630,696)	(△ 12,249,696)
経 常 費 用 計	342,053,000	321,455,651	20,597,349
当 期 経 常 増 減 額	△ 3,748,000	△ 855,119	△ 2,892,881
[2] 経常外増減の部			
(1) 経 常 外 収 益	0	0	0
(2) 経 常 外 費 用	0	0	0
当 期 経 常 外 増 減 額	0	0	0
当 期 一 般 正 味 財 産 増 減 額	△ 3,748,000	△ 855,119	△ 2,892,881
一 般 正 味 財 産 期 首 残 高	21,367,459	21,367,459	0
一 般 正 味 財 産 期 末 残 高	17,619,459	20,512,340	△ 2,892,881
II 指定正味財産増減の部			
(1) 受 取 寄 付 金	273,268,000	20,263,000	253,005,000
① 資 金 寄 付	(273,268,000)	(20,263,000)	(253,005,000)
(2) 一 般 正 味 財 産 への 振 替 額	△ 273,268,000	△ 20,263,000	△ 253,005,000
当 期 指 定 正 味 財 産 増 減 額	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 首 残 高	0	0	0
指 定 正 味 財 産 期 末 残 高	0	0	0
III 正味財産期末残高	17,619,459	20,512,340	△ 2,892,881

収 支 計 算 書(資金ベース)
平成26年4月1日から平成27年3月31日まで

(単位:円)

No.	科 目	予 算 額	決 算 額	増 減
	I 事業活動収支の部			
	1. 事業活動収入			
1	(1)御 下 賜 金	50,000	50,000	0
2	(2)会 費 収 入	34,120,000	33,560,000	560,000
3	(3)事 業 収 入	3,654,000	3,422,318	231,682
4	①発明奨励振興事業収入(3,654,000)	(3,422,318)	(231,682)
5	(4)補 助 金 等 収 入	27,113,000	21,223,666	5,889,334
6	①J K A 補 助 金 収 入(27,113,000)	(21,223,666)	(5,889,334)
7	(5)寄 付 金 ・ 協 賛 金 収 入	273,268,000	262,237,904	11,030,096
8	①資 金 寄 付 ・ 協 賛 金 収 入(104,000,000)	(91,969,904)	(12,030,096)
9	②特 定 寄 付 収 入(169,268,000)	(170,268,000)	(△ 1,000,000)
10	(6)雑 収 入	100,000	106,644	△ 6,644
11	事業活動収入計	338,305,000	320,600,532	17,704,468
	2. 事業活動支出			
12	(1)事 業 費 支 出	307,708,000	273,481,043	34,226,957
13	①発明奨励振興事業支出(191,948,000)	(155,620,362)	(36,327,638)
14	②事 業 人 件 費(97,037,000)	(98,769,939)	(△ 1,732,939)
15	③事 業 事 務 費(18,723,000)	(19,090,742)	(△ 367,742)
16	(2)管 理 費 支 出	29,845,000	43,474,608	△ 13,629,608
17	①人 件 費(8,514,000)	(10,121,912)	(△ 1,607,912)
18	②事 務 費(21,331,000)	(33,352,696)	(△ 12,021,696)
19	事業活動支出計	337,553,000	316,955,651	20,597,349
20	事業活動収支差額	752,000	3,644,881	△ 2,892,881
	II 投資活動収支の部			
	1. 投資活動収入			
21	投資活動収入計	0	0	0
	2. 投資活動支出			
22	(1)特 定 資 産 支 出	0	6,500,000	△ 6,500,000
23	投資活動支出計	0	6,500,000	△ 6,500,000
24	投資活動収支差額	0	△ 6,500,000	6,500,000
25	当期収支差額	752,000	△ 2,855,119	3,607,119
26	前期繰越収支差額	21,367,459	21,367,459	0
27	前期繰越収支差額修正額		△ 2,000,000	
28	次期繰越収支差額	22,119,459	16,512,340	5,607,119

以上の通り相違ありません。

平成27年5月15日

公益社団法人 発 明 協 会

会 長 庄 山 悦 彦

平成26年度事業報告書及び財務諸表について監査した結果、いずれも適正かつ適法であることを認めます。

平成27年5月15日

監査役 梶 原 徳 二

監査役 安 井 義 博